

生神女祭日聖体礼儀  
単音聖歌譜



司祭祈禱

注意 譜面中、五線譜上に ||o|| とある部分は、その音程を保ちながら、その部分の歌詞（祈禱文）が持つ言葉の自然なリズムに則って歌うことを意味しています。ただ早く歌ってしまったり、棒読みになってしまったりしないよう、気をつけてください。この聖歌譜はそのために、歌詞の意味をとることが容易になるよう漢字を多く用いて作成しています。

2020年10月14日

釧路ハリストス正教会

管轄司祭ステファン内田圭一

司祭) ( 黙誦: 天の王、慰むる者よ、眞實の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者

よ、萬善の寶藏なる者、生命を賜うの主よ、來りて我等の中に居り、我等を

もろもろ けがれ いさぎよ しぜんしゃ われら たましい すく たま  
諸の穢より潔くせよ、至善者よ、我等の靈を救い給え。

いと高きには光榮神に歸し、地には平安降り、人に恵は臨めり、いと高き

には光榮神に歸し、地には平安降り、人に恵は臨めり、

しゅ わ くちびる ひら しか わ くち なんぢ さんび あ  
主よ、我が唇を啓けよ、然せば我が口は爾の讚美を揚げんとす、 )

司祭) 父と子と聖神の國は崇め讃めらる、今も何時も世々に、



### 【 大聯禱 】

司祭) 我等安和にして主に禱らん、



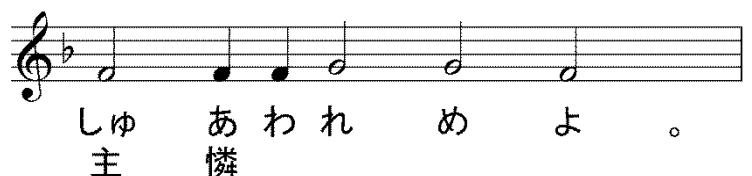
司祭) 上より降る安和と我等が靈の救の爲に主に禱らん、



司祭) 全世界の安和、神の聖なる諸教會の堅立、及び衆人の合一の爲に主に禱らん、



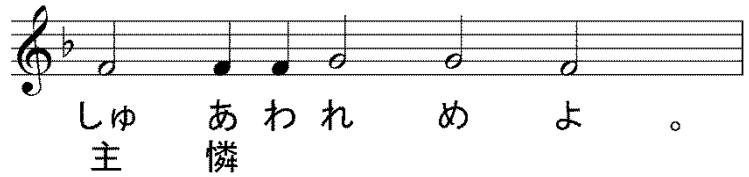
司祭) 此の聖堂、及び信と慎と神を畏る心とを以て此に来る者の爲に主に禱らん、



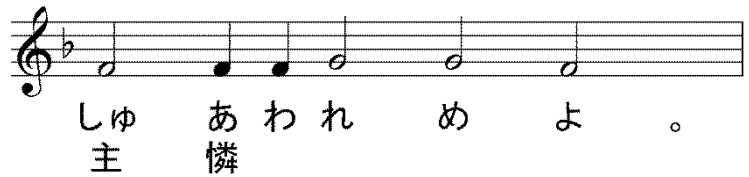
司祭) 教 會 を 司 る 尊 貴 なる 我 等 の 全 日 本 の 府 主 教 ダニイル、尊 貴 なる 我 等 の 仙 台 の

大 主 教 セラフィム、司 祭 の 尊 品、ハリストスに 因 る 輔 祭 職、悉 くの 教 衆、及 び

衆 人 の 爲 に 主 に 禱 らん、



司祭) 我 國 の 天 皇、及 び 國 を 司 る 者 の 爲 に 主 に 禱 らん、



司祭) 此 の 都 邑 と 凡 の 都 邑 と 地 方 の 爲、及 び 信 を 以 て 此 の 中 に 居 る 者 の 爲 に 主 に 禱 らん、



司祭) 氣 候 順 和、五 穀 豊 穰、天 下 泰 平 の 爲 に 主 に 禱 らん、

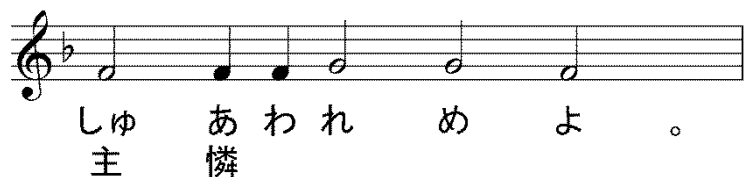


司祭) 航 海 する 者、旅 行 する 者、病 を 患 う る 者、艱 難 に 遭 う 者、擄 とな り し 者、及 び

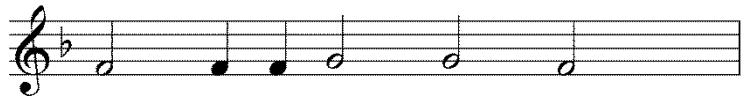
彼 等 の 救 の 爲 に 主 に 禱 らん、



司祭) 我 等 諸 の 憂 愁 と 忿 怒 と 危 難 と を 免 る 者 が 爲 に 主 に 禱 らん、



司祭) 神 よ、爾 の 恩 寵 を 以 て、我 等 を 佑 け 救 い 憐 み 護 れよ、

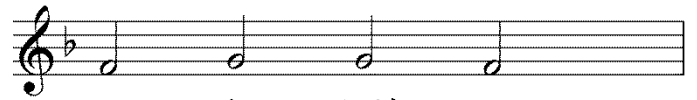


しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

司祭) 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、

諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の

生命を以て、ハリストス神に委託せん、



しゅ な んぢ に 。  
主 爾

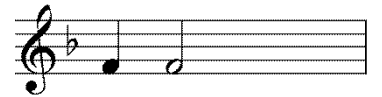
司祭) ( 黙誦: 主我が神よ、爾の權柄は像り難く、光榮は測り難し、爾の仁慈は限り

無く、仁愛は言い難し、求む主宰よ、爾の慈憐に因りて、親ら我等と此の

聖堂とを眷み、我等及び我等と偕に禱る者に爾の豊なる恩澤と爾の

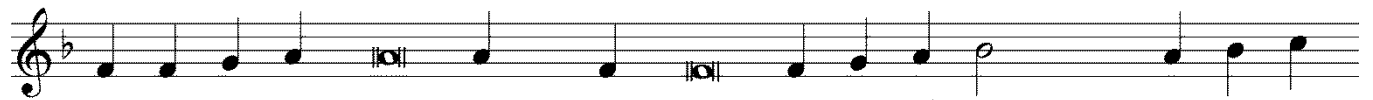
愛憐とを施し給え、 )

司祭) 蓋、凡そ光榮尊貴伏拜は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、

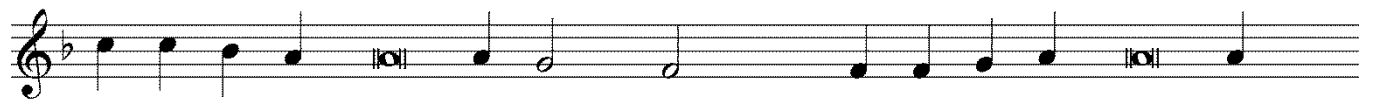


ア ミ ン。

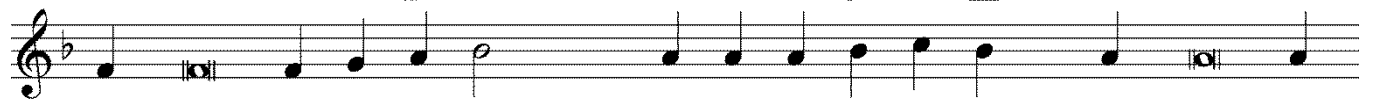
【 第一アンティフォン 】



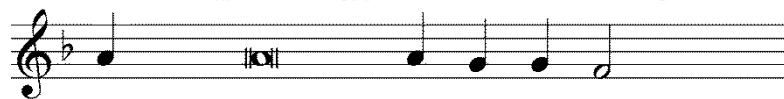
わ が た ま し い よ 、 しゅ を ほ め あ げ よ 、 しゅ よ な ん  
我 靈 主 讚 揚 主 爾



ぢ は あ が め ほ め ら る 。 わ が た ま し い よ 、  
崇 讚 我 靈



しゅ を ほ め あ げ よ 、 わ が ち ゅ う し ん よ 、 そ の せ い  
主 讚 揚 我 中 心 其 聖



な る な を ほ め あ げ よ 。  
名 讚 揚



わがたましいよ、しゅをほめあげよ、かれが  
我靈主讃揚彼

ことごとくのおんをわするるなかれ。

かれはなんぢがもろもろのふほうをゆるる  
彼爾諸不法赦

し、なんぢがもろもろのやまいをいやす。

おえいはちとこいとせいしんにきす。

光榮父子と聖神歸

いまもいつもよよに、アミン。

わがたましいよ、しゅをほめあげよ、わがちゅう  
我靈主讃揚我中

うしんよ、そのせいなるなをほめあげよ、  
心其聖名讃揚

しゅよ、なんぢはあがめほめらる。

主爾崇讃

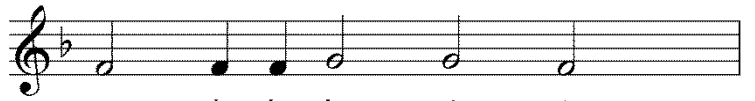
【 小聯禱 】

司祭) われらまたまたあんわ <sup>しゅ</sup>いの  
我等復又安和にして主に禱らん、



しゅあわれめよ。  
主憐

司祭) かみ <sup>なんぢ</sup>おんちよう <sup>もつ</sup>われら <sup>たす</sup>すく <sup>あわれ</sup>まも  
神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、

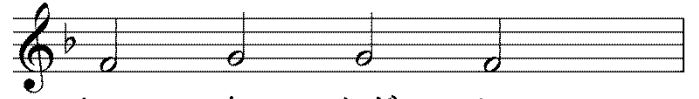


しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

司祭) 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、

諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の

生命を以て、ハリストス神に委託せん、



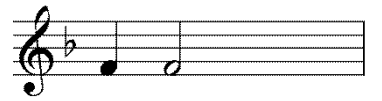
しゅ な ん ぢ に 。  
主 爾

司祭) ( 黙誦: 主我が神よ、爾の民を救い、及び爾の嗣業に福を降し、爾が教會の

充滿を守り、爾が堂の美なるを愛する者を聖にせよ、爾が神聖の力を

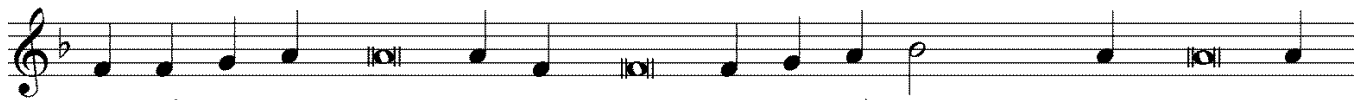
以て彼等を光榮し、我等爾を恃む者を遺す勿れ、 )

司祭) 蓋權柄及び國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世に、

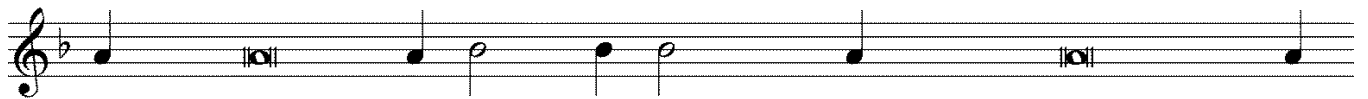


ア ミ ン。

【 第二アンティフォン 】



わ が た ま し い よ しゅ を ほ め あ げ よ 、 わ れ い け  
我 靈 主 讚 揚 我 生



る う ち しゅ を ほ め あ げ ん 。 わ れ ぞ ん め い の う ち  
中 主 讚 揚 我 存 命 中



わ が か み に う た わ ん 。  
我 神 歌



ぼ く は く を た の む な か れ 、 す く う  
僕 伯 特 母 救

あ た わ ぎ る ひ と の こ を た の む な か れ 。  
能 人 子 侍 母

し ゅ は た び び と を ま も り 、 み な し ご と  
主 是 人 護 孤 子

や も め と を た す け 、 た だ ふ け ん し ゃ の み ち を  
寡 婦 佑 惟 不 虔 者 途

く つ が え す 。  
覆

し ゅ は え い え ん に お う と な ら ん 。 シ オ ン よ な ん ぢ  
主 永 遠 王 爾

の か み は よ よ に お う と な ら ん 。  
神 世 世 王

【 神の獨生の子 】

こ う え い は ち ち と こ と せ い し ん に き す 、 い ま も  
光 榮 父 子 聖 神 歸 今

い つ も よ よ に 、 ア ミ ン 。  
何 時 世 世

か み の ど く せ い の こ な ら び に こ と ば よ 、  
神 獨 生 子 並 言

し せ ぎ る も の に し て わ れ ら を す く わ ん が た め  
死 者 我 等 救 爲

あ ま ん じ て せ い な る し ょ う し ん ぢ ゃ ・ え い て い ど う ぢ ゃ  
甘 聖 生 神 女 永 貞 童 女



マ リ ヤ よ り み を と り 、 か み の せ い を か え  
身 取 神 性 易

ず し て ひ と と な り じ ゅ う じ か に く ぎ う た れ 、  
人 十 字 架 釘

し を も っ て し を ふ み や ぶ り し ハ リ ス ト ス か み よ 、  
死 以 死 踏 破 神

せ い さ ん し ゃ の い つ と し て ち ち と せ い し ん と と  
聖 三 者 一 父 聖 神 共

も に さ ん え い せ ら る る の し ゅ よ 、 わ れ ら を す  
讚 榮 主 我 等 救

く い た ま え 。  
給

【 小 聯 禱 】

司祭) <sup>われらまたまたあんわ</sup>我等復又安和にして<sup>しゅ いの</sup>主に禱らん、

しゅ あ わ れ め よ 、 しゅ あ わ れ め よ 。  
主 憐 主 憐

司祭) <sup>かみ なんぢ おんちよう もつ われら たす すく あわれ まも</sup>神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ、

<sup>しせいしけつ</sup>至聖至潔にして<sup>いた</sup>至りて<sup>さんび</sup>讚美たる<sup>われら</sup>我等の<sup>こうえい</sup>光榮の<sup>ぢよさい</sup>女宰、<sup>しょうしんぢよ</sup>生神女、<sup>えいていどうぢよ</sup>永貞童女マリヤと、

<sup>しよせいじん</sup>諸聖人を<sup>きおく</sup>記憶して、<sup>われらおのれ</sup>我等己の<sup>みおよ</sup>身及び<sup>たがい</sup>互に<sup>おのおの</sup>各の<sup>み</sup>身を以て、<sup>もつ</sup>並に<sup>ならび</sup>悉くの<sup>ことごと</sup>我等の<sup>われら</sup>

<sup>いのち</sup>生命を以て、<sup>もつ</sup>ハリストス<sup>かみ</sup>神に<sup>いたく</sup>委託せん、

しゅ な ん ぢ に 、  
主 爾

司祭) ( 黙 誦 : <sup>われら</sup>我等に<sup>こ</sup>此の<sup>こうどうわごう</sup>共同和合の<sup>きとう</sup>祈禱を<sup>たま</sup>賜い、<sup>かつ</sup>曾て<sup>にさんになんぢ</sup>二三人<sup>な</sup>爾の名に<sup>よ</sup>依りて<sup>あつ</sup>集まる<sup>もの</sup>者に

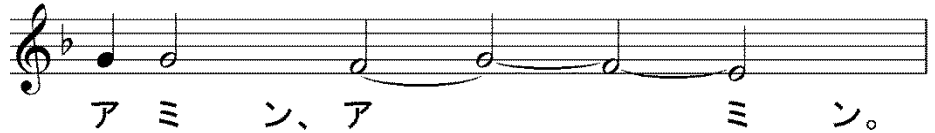
そのもと ところ たま やく しゅ なんぢみづか いま なんぢ しょぼく ねがい その  
も其求むる所を賜うを約せし主よ、爾親ら今も爾が諸僕の願を其

りえき ため かな われら こんせ なんぢ しんり し らいせ えいえん いのち  
利益の爲に應わしめて、我等に今世には爾の眞理を識り、來世には永遠の生命

え たま  
を得るを給え、 )

司祭) 蓋 爾は善にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も

いつ よよ  
何時も世に、



【 第三アンティフォン 】

しゅ よ な んぢ の く に に き た ら ん と き 、  
主 爾 國 來

われらをおもいたまえ。こころのま貧  
我等記憶給 心(神・しん)

づしきものはさいわいな り、てんごくはか彼  
者 福 天國

れらのものなればなり。

なくものはさいわいな り、かれらな慰  
泣 者 福 彼 等

ぐさみをえんとすればなり。

得

おんぢゅうなるものはさいわいな り、か彼  
溫柔 者 福

れらちをつがんとすればなり。

等地 嗣

ぎ に う え か わ く も の は さ い わ い な  
 義 飢 渴 者 福  
 り 、 か れ ら あ く を え ん と す れ ば な り 。  
 彼 等 飽 得  
 あ わ れ み あ る も の は さ い わ い な り 、  
 矜 恤 者 福  
 か れ ら あ わ れ み を え ん と す れ ば な り 。  
 彼 等 矜 恤 得  
 こ こ ろ の き よ き も の は さ い わ い な り 、  
 心 清 者 福  
 か れ ら か み を み ん と す れ ば な り 。  
 彼 等 神 見  
 わ へ い を お こ の う も の は さ い わ い な  
 和 平 行 者 福  
 り 、 か れ ら か み の こ と な づ け ら れ ん と す れ ば  
 彼 等 神 子 名  
 な り 。  
 ぎ の た め に き ん ち く せ ら る る も の は さ い わ  
 義 爲 窘 逐 者 福  
 い な り 、 て ん ご く は か れ ら の も の な れ ば  
 天 國 彼 等 有  
 な り 。

ひとわれのためになんぢらをのしりき窘  
 人我爲爾等詬  
 んちくし、なんぢらのことをいつわりてもろ  
 逐爾等事譎諸  
 もろのあしきことばをいわんときはなんぢらさい  
 悪言言言時爾等福  
 わいなり、よろこびたのしめよ、  
 喜樂  
 てんにはなんぢらのむくいおおければなり。  
 天爾等賞多

司祭) ( 黙誦：主<sup>しゅさい</sup>宰<sup>しゅ</sup>・主<sup>われら</sup>・我等<sup>かみ</sup>の神<sup>しよてん</sup>、諸<sup>てんしおよ</sup>天<sup>てんししゅ</sup>に天使<sup>ひんきゅう</sup>及び<sup>ぐんたい</sup>、天使<sup>た</sup>首<sup>た</sup>の品<sup>た</sup>級<sup>た</sup>と軍隊<sup>た</sup>とを立て

て爾<sup>なんぢ</sup>が光榮<sup>こうえい</sup>の奉事者<sup>ほうじしや</sup>となしし者<sup>もの</sup>よ、求む<sup>もと</sup>我等<sup>われら</sup>の入<sup>い</sup>るに<sup>ともな</sup>伴<sup>か</sup>いて、彼<sup>われら</sup>の我等<sup>た</sup>と

とも<sup>とも</sup>つと<sup>とも</sup>、共に<sup>なんぢ</sup>爾<sup>しぜん</sup>の至善<sup>さんえい</sup>を讚<sup>せいてん</sup>榮<sup>しらい</sup>する聖<sup>いた</sup>天使<sup>たま</sup>等<sup>けだし</sup>の入<sup>およ</sup>るを致<sup>およ</sup>させ給<sup>およ</sup>え、蓋<sup>およ</sup>、凡<sup>およ</sup>

そ光榮<sup>こうえい</sup>尊貴<sup>そんき</sup>伏<sup>ふく</sup>拝<sup>はい</sup>は爾<sup>なんぢ</sup>父<sup>ちち</sup>と子<sup>こ</sup>と聖<sup>せい</sup>神<sup>しん</sup>に歸<sup>き</sup>す、今<sup>いま</sup>も何<sup>いつ</sup>時<sup>よよ</sup>も世<sup>よよ</sup>に、 )

司祭) 睿智<sup>えいち</sup>、肅<sup>つし</sup>みて立<sup>た</sup>て、

きたれ、ハリストスのまえにふしおが  
 來前伏拜  
 まん。かみの子しょうしんぢよのきとうに  
 神子生神女祈禱  
 よって、なんぢにアイルイヤをたてまつる  
 因爾奉  
 ものをすくいたまえ。  
 者救給え。